

# 自然環境下に潜む感染症



((23))



山内可南子助教

## 「アメーバ」の危険性

探究心旺盛な小中高生の皆さんに向けて、弘前大学の先生たちのユニークな研究を紹介するこの連載。今回は「自然環境下に潜む感染症」についての研究

通常は自然環境に生息してヒトや動物といった宿主を必要としない「自由生活性」と呼ばれるアメーバですが、まれに人を含めた哺乳動物に対して、深

く感染を引き起こす可能性があるのです。みなさんは「アメーバ」の危険性を知っていますか？ アメーバは、湖や土の中、ほこりの中など、私たちの生活の中のいたるところに生息している単細胞生物です。

近年、自然界に生息し、病原性を持つ「自由生活性アメーバ」の感染例が世界各地で報告され始めています。感染すると、角膜炎や皮膚炎などの疾患を引き起こしますが、重症化すると「アメーバ性

髄膜炎」という非常にまれな疾患を発症することがあります。アメーバ性髄膜炎は、発症後の症状の進行が早いのが特徴で、致死率は95%以上と言われています。主に基礎疾患を抱える人の感染リスクが高いとされていますが、最近の日本国内において、基礎疾患がなく、免疫も正常な人が感染する例が

とで感染症の検査や治療、予防に貢献することを目指しています。現在、日本にとどまらず世界的に見ても、アメーバ性髄膜炎に関する研究者はほとんどいません。また、このような珍しい感染症は研究報告が少なく、今後発展しづらい分野でもあります。

アメーバの生態調査は、すぐに感染症治療

あるなど、感染の条件がはつきりせず、誰しもが感染するリスクを抱えているのです。そんな状況の中、有効な抗薬はいまだ世界中どこにも存在しないのが現状です。研究者が少なく中でもコツコツと

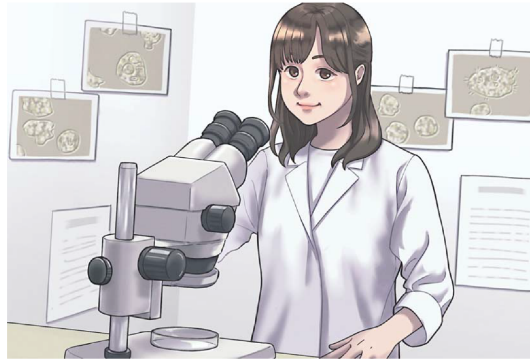
そこで、弘前大学の山内先生はアメーバの生息環境や生態を調査し、病態を解析するこ

とで、将来の日本医療へ貢献する可能性は非常に高いのです！最後に、山内先生からのメッセージ

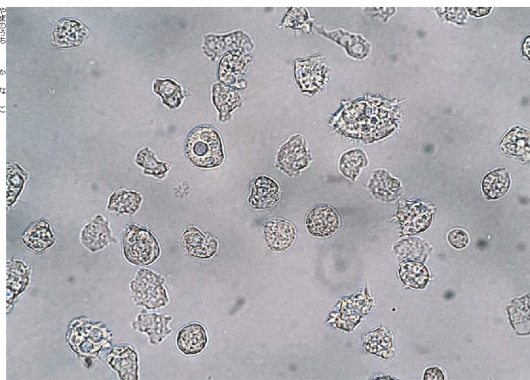
日本国内は特に衛生状態も良く、寄生虫による感染症は非常に珍しいものになりました。しかし、国際化の加速による輸入感染症や、検査技術の向上による新発見の病原体も増えています。

二ツ子ながらも重要な研究分野である感染症の研究発展に、ぜひ一緒に取り組む、日本医療の未来に大きく貢献しませんか？

研究室でお待ちしております！



イラスト・弘前大学教育学部 ひつじ玲汰



土壌に生息するアカントアメーバ



木村愛華

※この画像は、当該ページに限り陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。 令和5年8月28日 陸奥新報掲載